

れている。(b)においては、撒布直後、肉眼ではその差異が判然としていた。(c)においては、図に示す空気吸入口のガラス管の直径が小さすぎた為、粒子の大きい浮遊物を、吸引出来なかつた傾向が見られる。(d)においては、手堀式有蓋井戸であるにもかかわらず、滲透により、農薬の混入することは、極めて注目すべきである。然も7月25日撒布してより、20日以上も経過した8月18日に至つて初めて完全に消失

した。但しこの程度の濃度では、直接に害は無いと考えられるが、広範囲の井戸について、個々の試験を行わねば、結論は与えられない。意外に多量の農薬を溶解した井戸もあるかもしれないが、今回はその経日変化に主力をおいた。A, B, Cの地点の井戸にても、一ヶ月以上経過すれば、検出されない。

3. 雨水の放射能測定

秋山 悌四郎 渡辺 操

(1) ま え が き

最近、降雨中の放射能が社会の大きな関心事になって来たので、新に下記にしめす測定器を購入し、降雨ごとにその放射能を測定した。

昭和37年4月より、同38年3月迄の1ヶ年間の降雨、および降雪の放射能測定結果を報告する。

(2) 測定方法

測定方法はすべて、科学技術庁編さん、放射能測定法(1957)によつた。

雨水の採取方法は、同書にしめされた54-A型採水装置(土肥商会製)を用いて、降りはじめの雨100ccを試料とした。

測定器は次のごときものである。

計 数 装 置	Aloka DC-3C型
測 定 台	Aloka PS-1型
使用計数管	Aloka GM-2504A
マイカ窓の厚さ	1.4mg/cm ²
窓から距離	1.0cm (1段目)
比較試料	U ₃ O ₈ 科研 A-286
試料皿	ステンレス製 内径25mm 高さ6mm 厚さ0.3mm

(3) 測定結果

試料番号	降雨開始日時 年月日時分	測定日時 月日時分	計 数 率 cpm				備 考
			比較試料計数率	自然計数率	試料計数率 (自然計数 をのぞく)	試料計数率 cpm/l	
1	37. 4.12 17. 0	4.13 11.30	3,822.1±27.6	23.8±0.7	76.8±2.0	768±20	
2	4.15 23.30	4.16 10.0	3,821.5±27.6	21.7±0.9	59.8±1.6	598±16	
3	4.18 9. 0	4.19 10.0	3,657.0±27.2	25.7±0.8	7.0±1.1	70±11	
4	4.25 16. 0	4.26 12.10	3,772.3±27.5	22.7±0.8	338.4±3.6	3,384±36	
5	5. 4 18.30	5. 7 11.0	3,801.2±27.6	24.6±0.7	19.8±1.5	198±15	
6	5. 9 11.0	5.10 10.30	3,663.4±27.2	23.2±0.8	49.8±1.9	498±19	
7	5.12 15.10	5.12 9.20	3,705.8±27.4	22.6±0.8	20.2±1.6	202±16	
8	5.15 18.30	5.15 10.30	3,772.6±27.5	22.6±0.6	49.7±1.8	497±18	
9	5.22 15.10	5.23 10.15	3,800.9±27.6	23.0±0.9	100.5±2.7	1,005±27	
10	5.27 13.30	5.28 10.30	3,690.0±27.4	21.5±0.9	86.3±1.9	863±19	
11	6. 2 8. 0	6. 4 10 20	3,684.2±27.3	29.9±0.7	114.3±3.9	1,144±39	
12	6. 9 6. 0	6. 9 12.0	3,720.3±27.5	24.0±0.6	16.3±1.3	163±13	

試料 番号	降雨開始 年月日時分	測定日時 月日時分	計 数 率 cpm				備 考
			比較試料計数率	自然計数率	試料計数率 (自然計数 をのぞく)	試料計数率 cpm/l	
13	6. 9 18.30	6.11 12. 0	3,698.6±27.4	36.9±0.7	9.4±1.6	94±16	
14	6.21 4.30	6.22 14.10	3,702.5±27.4	24.7±0.6	61.2±1.9	612±19	
15	6.25 12.30	6.26 10.30	3,602.2±27.0	23.5±0.8	10.0±1.3	100±13	
16	7. 9 7. 0	7.10 10.30	3,600.4±27.0	23.3±0.8	5.0±1.8	50±18	
17	7.13 5. 0	7.14 12.10	3,731.8±27.5	29.8±0.6	39.7±1.7	397±17	夕立
18	7.19 7.30	7.20 12. 0	3,821.5±27.6	20.8±0.9	21.9±2.2	219±22	
19	7.27 6.30	7.28 11.20	3,666.4±27.2	24.7±0.6	23.5±1.6	235±16	
21	8.23 7.30	8.23 10. 0	3,745.4±27.5	25.0±0.6	73.0±2.1	730±21	
22	10.28 11. 0	10.29 12.15	3,820.9±27.6	25.3±0.7	49.9±1.8	499±18	
23	11. 3 13. 0	11. 5 11. 0	3,742.6±27.5	24.8±0.6	122.4±3.9	1,224±3.9	
24	11.15 16. 0	11.16 14.10	3,695.4±27.4	25.1±0.7	91.2±2.3	912±23	
25	11.16 7. 0	11.17 10.20	3,855.3±27.7	24.8±0.6	68.8±2.7	688±29	
26A	37.11.27 3. 0	11.28 1. 0	3,720.1±27.5	25.3±0.6	757.2±2.9	7,572±29	蒸発残渣黒色多量
26B		11.30 10.30	3,607.0±27.0	27.4±0.6	592.0±7.8	5,920±78	同試料第2回測定
26C		12. 7 11.20	3,645.5±27.2	24.6±0.7	540.6±5.3	5,406±53	同試料第3回測定
27	11.28 4. 0	11.29 11. 0	3,621.6±27.1	21.4±0.9	211.7±4.8	2,117±48	
28	12. 5 4.30	12. 7 11.10	3,577.0±26.8	25.5±0.7	22.2±1.6	222±16	
29	12.21 2. 0	12.17 9. 0	3,826.3±27.7	22.5±0.6	79.3±2.1	793±21	
30	38. 2. 7 6. 0	2. 8 11. 0	3,865.7±27.7	24.2±0.7	26.2±1.8	262±18	
31	3.12 1. 0	3.12 14. 0	3,790.0±27.6	24.6±0.7	115.4±1.4	1,154±14	雪
33	3.28 2. 0	3.29 11. 0	3,946.8±29.0	25.5±0.6	53.2±1.9	532±19	

(4) ま と め

11月末に急に放射能が増大し7,572cpm/lをしめたこの試料を10日間の中に2回測定したが著しい減衰をしめさなかつた。

12月に入り平常に復した。通常500cpm/l前後である。1,000cpm/lをこしたのは、4月25日、5月22日、6月2日、11月3日、11月27日、11月28日の雨および3月12日雪であつた。

4. 富士山積雪の放射能について

秋山 悌四郎 久保田寿々代 渡辺 操 村田 和禧

1) ま え が き

例年多数の登山者が、その積雪をとかし飲用に供することの多いのにかんがみ、富士山開きをまえにして、その積雪、ならびに各山小屋の天水等の放射能測定を目的として、昭和37年6月28日、29日富士山に登山して、

試料24ヶを採取し、その放射能を測定した。

2) 測 定 方 法

沖電気社製 Suvey Meter (GM管 Philips社製 18506 型 マイカ厚さ25~35mg/cm²) を現地を持参し、積雪